

# 地球に生きるわたしたち

実践場所	鯖江市鯖江東小学校（福井県）	実践者	高島 純子
対象	小学6年生		
実践教科	総合的な学習の時間、社会、道徳（全6時間）		
ねらい	<p>○地球にはさまざまな人々が生活しており、違った文化や伝統があることを理解する。</p> <p>○地球という村がより良い村になるように活動している人々（青年海外協力隊）について知る。</p> <p>○地球という村をより良い村にするために、自分ができることを考える。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<b>【世界に目を向けよう】（事前学習）</b> ・「世界がもし100人の村だったら」を読んで考える。 世界の国々は日本と同じ暮らしではないことをデータで知る。	道徳副読本 資料
	2	<b>【ドミニカ共和国について知ろう】</b> ・ドミニカ共和国で青年海外協力隊として活動していた倉橋先生の話聞く。 ドミニカ共和国の紹介 JICAの紹介 隊員として実際行った仕事内容の紹介	パワーポイント
	3	<b>【サモア独立国について知ろう①】</b> ・ここはどこだろう（クイズ）……写真から ・サモアの学校の紹介 ・サモア語の紹介	パワーポイント
	4	<b>【サモア独立国について知ろう②】</b> ・サモアの生活……衣・食・住 ・子どもの生活……サモアと日本 ・サモアの文化・伝統……ダンス、歌、宗教	パワーポイント サモアボックス
	5	<b>【青年海外協力隊について知ろう】</b> ・ウズベキスタンで活動していた元協力隊隊員 多田さんの話を聞く。	パワーポイント ゲストティーチャー （元隊員）
	6	<b>【ジャイピーと学ぼう】</b> ・日本と開発途上国とのつながりについて知る。 ・ジャイピーがわたしたちに届けたいメッセージについて考える。	ワークシート DVD
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々は多種多様な生活をしており、いろいろな文化があるということに気づき、世界に興味関心をもつことができた。</li> <li>・生まれた時からスイッチ一つで何でもできてしまう、そして溢れるほどの物に囲まれて生活している子どもたちが、この生活は日本だけでは成り立っていないのだ、世界の国々との支え合いによって成り立っているのだということに気づくことができた。そして、自分の生活の仕方や生き方についても考えられる児童も出てきた。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力や異文化理解・多文化共生についての学習をこれからも継続して取り組むこと。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が地球規模で考えられる日本人に成長してほしい。そして、どんなに小さな取り組みでもいいので、国際協力につながる行動を起こせる大人になってほしいと思う。</li> <li>・多様な価値観があることを知り、それらを認め、繋がりをもとうとする日本人になってほしいと思う。</li> </ul>		

## ▶▶▶ 授業実践の詳細

### 1 時限目▶▶▶ 「世界に目を向けよう」

#### ねらい

- ・世界の現状を知り、世界の人々の平和と幸せのために努力しようとする心情を養う。

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①資料「世界がもし100人の村だったら」を読んで話し合う。
- ②資料「2000年に生まれた子どもが100人だったら」を読んで話し合う。
- ③世界の人々が幸せに暮らしていくためにできることを考える。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちは、テレビや本や授業などで、世界の国々についての知識を多少は持ち合わせていたが、どちらかといえば先進国についての知識が多く、世界全体の現状について考えたことはなかった。資料「世界がもし100人の村だったら」を読んで、びっくりしていた子も少なくない。

##### 《児童の感想》

- ・世界には水や食べ物が十分食べられない子どもや大人がたくさんいるのに、日本はいつでも食べ物があるし、お金持ちだから幸せな国だなあと思いました。
- ◇現状をおおまかに知った上で、「では世界の人々が幸せに暮らしていけるようにするために何ができるかな。」という質問を投げかけると、子どもたちは考え込んでいた。多かった反応は「募金をする」ということだった。

#### 3 使用した教材

〈教材1〉道徳副読本「みんなで考える道徳 6年」（日本標準）  
出典 池田香代子再話「世界がもし100人の村だったら」（マガジンハウス）

### 2 時限目▶▶▶ 「ドミニカ共和国について知ろう」

#### ねらい

- ・ドミニカ共和国の写真を見たり、話を聞いたりして日本とは違う文化や伝統があることに気づく。
- ・青年海外協力隊の活動について知る。

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①ドミニカ共和国の生活や文化を知る。
- ②JICAの概要（活動内容、歴史）を知る。
- ③青年海外協力隊として現地でのどのような活動をし、どのようなことを考えたのかを知る。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

◇昨年度10月から本校の職員となった倉橋先生は、本校勤務になる数ヶ月前までドミニカ共和国で3

年間青年海外協力隊隊員として活動されていた。現地の学校の先生に教授法を指導するという仕事だったそうだ。子どもたちは生活様式や学校の様子、文化、宗教等全てが日本とまるきり違うことに驚いていた。

### 《児童の感想》

- ・ドミニカは、日本みたいに時間がしっかり決まっていないということを知り、とてもびっくりしました。また、学校の教科が4教科しかないなんてなぜだろうと不思議に思いました。倉橋先生の話を知っているうちに、それは教えられる先生がいなかったということが分かりました。
- ・ドミニカ共和国のことを聞いて、日本とはあまりにも違うことばかりなのでびっくりしました。倉橋先生の友達のドミニカ人が、普通に道を歩いているのに銃で撃たれたという話を聞いて、とてもこわいと思いました。
- ・ドミニカでは日本ではできないことができそうで楽しそうだなと思いました。例えば、毎日必ずお昼寝をする時間があるということです。こわい話もあったけれど、楽しい話もいろいろ聞いて、もっとドミニカのことを知りたいと思いました。



## 3 使用した教材

〈教材1〉 パワーポイント

ドミニカの先生たちに教授法を指導中の倉橋先生



元気いっぱいのドミニカの子どもたち



ドミニカの食事



# 3 時限目 ▶▶▶ 「サモア独立国について知ろう①」

## ねらい

・サモアに関するクイズを解きながら、サモアという国を知り、興味・関心をもつ。

### 1 子どもの活動の流れ

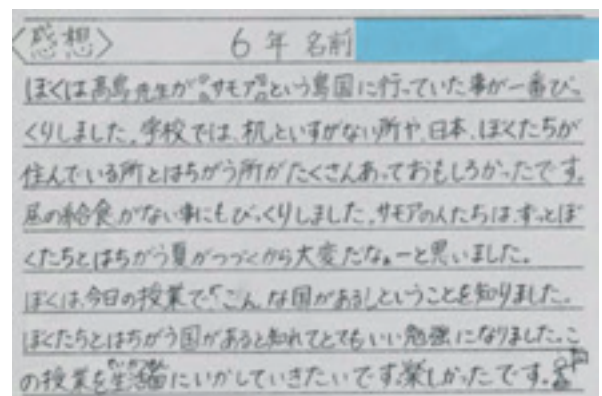
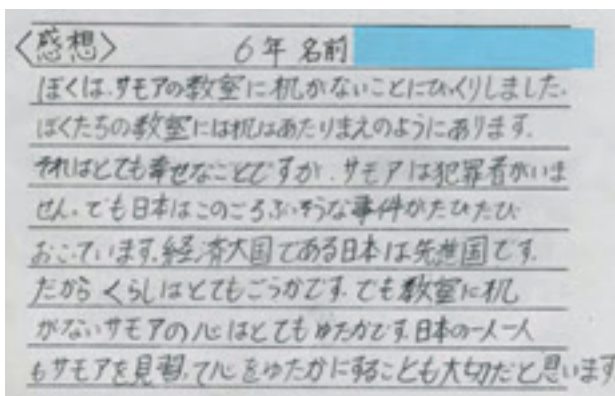
- ①ここはどこだろうクイズをする。
- ②サモアの学校の様子について知る。
- ③簡単なサモア語を知る。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇社会科で「世界の国調べ」という学習がある。その時、自分が興味をもった国について、その概要や生活、文化などについて調べ、みんなに発表するという学習を計画した。みんなの調べ学習が一応済み、いよいよ発表という段階で、「実は先生もある国のことを調べたので、トップバッターで発表するね。」と言ってパワーポイントを使って問題を出しながら発表を始めた。発表の途中、パワーポイントの中に私の写真が出てきた時、子どもたちは「あれっ、先生が写っている！」と驚いていた。そして、その先生が自分たちの学校の様子をサモアの子供たちに写真で紹介してきたということで、サモアのことを身近に感じてくれたように思った。

◇授業の数日後、ある子が友達に何か話をした後、「マラマラマ？」とサモア語で問いかけている姿を見て、サモア語をちゃんと覚えていてくれたのだと嬉しく感じた。

#### 《児童の感想》



### 3 使用した教材

《教材1》パワーポイント「ここはどこだろう」

#### 日本は…

- ・食料自給率40%…輸入に頼っている
- ・借金もたくさんある
- ・子どもは少なく、高齢者が増えている
- ・変な事件がたくさん起きている
- ・災害も多い…地震、津波、水害など
- ・大人は朝から晩まで忙しく働いている

これから紹介する国は

**開発途上国**です

さて、ここは どの国？

日本には ある (いる) けれど  
この国には ない (いない) もの

1. 意地悪な人
2. 物の取り合い、うばい合い
3. 家の仕事 (家事) をしない子ども
4. 「早く勉強しなさい」という大人
5. 不審者

〈教材2〉 パワーポイント 「サモアの学校」



プライマリースクール訪問

・サモア

6才	13才	18才
プライマリースクール 8年	カレッジ 5年	

・日本

7才	12才	18才
小学6年	中学校3年	高校3年



サモアのプライマリースクールで習字をした時の様子



鯖江東小学校のことを写真と片言の英語で紹介した時の様子

〈教材3〉 パワーポイント 「簡単なサモア語」

サモア語

- |                  |   |         |
|------------------|---|---------|
| Fa'afetai ファフェタイ | 1 | 学校      |
| Malamalama マラマラマ | 2 | ソーセージ   |
| Pepe ペペ          | 3 | ありがとう   |
| Sosisi ソシシ       | 4 | 赤ちゃん    |
| Fale aoga ファレアオガ | 5 | わかりますか？ |
| Lavalava ラバラバ    |   |         |

サモア語の「ファフェタイ」は日本語で言うと何？ 1～5から選ぼう。

## 4時限目▶▶▶「サモア独立国について知ろう②」

### ねらい

- ・サモアの生活や文化にふれ、異文化に興味・関心をもつ。

### 1 子どもの活動の流れ

- ①サモアの生活（衣・食・住）を知る。
- ②サモアの子どもの生活を知る。
- ③サモアの文化・伝統を知る。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇子どもたちは、3時限目にサモアという国について少し知ったので、4時限目は「また楽しい国の話だな」と笑顔になっていた。とにかく、文化も生活事情も日本とは全く違う異国の話という感じで受け止めていた。サモアの子どもの話になると、家の仕事などほとんど親任せでしていない子が多いので、耳が痛そうだった。

#### 《児童の反応》

- ・サモアの食べ物はとてもおいしそうだったので食べてみたくなりました。バナナの採り方を初めて知りました。採れたてのバナナを食べてみたいです。
- ・大人の男の人がスカートのようなものをはいていたのでびっくりしました。それに実物を見たらとっても大きかったので、またまたびっくりしました。
- ・サモアという国はおもしろい国だなと思いました。とても興味がわいたのでもっと詳しく調べてみたいと思いました。



◇お借りした「サモアボックス」の中には興味深い物がたくさんあり、子どもたちは実際に手に取ってその感触を確かめたり、試着してみたり、匂いを嗅いでみたりして楽しんでいました。

### 3 使用した教材

〈教材1〉パワーポイント「サモア衣食住」

衣



住



タロ



バナナ



ぶた肉



ココナツ(ヤシの実)

食



## 5 時限目 ▶▶▶ 「青年海外協力隊について知ろう」

ねらい

- ・ウズベキスタンの写真を見たり、話を聞いたりして日本とは違う文化や伝統があることに気づく。
- ・青年海外協力隊の活動について知る。

### 1 子どもの活動の流れ

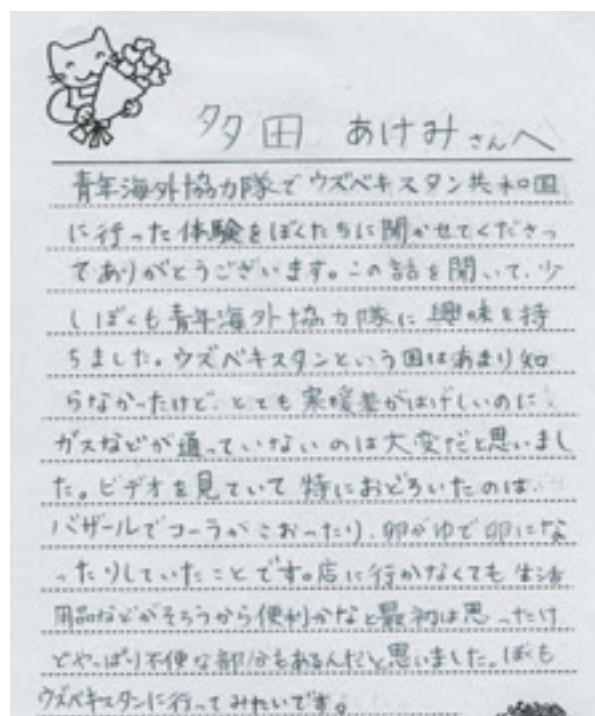
- ①ウズベキスタンの生活や文化を知る。
- ②青年海外協力隊として現地でのどのような活動をし、どのようなことを考えたのかを知る。
- ③疑問に思ったことやもっと知りたいことを質問する。

### 2 子どもの活動の成果・反応

◇ウズベキスタンで2年間青年海外協力隊の活動に取り組まれた看護師の多田明未さんに学校に来ていただいた。貴重な経験談なので、この時間は本校の6年生児童全員がお話を聞いた。多田さんはウズベキスタンの民族衣装を着てお話ししてくださいました。とても気さくでソフトな語り口に、みんな吸い込まれるように話に聞き入った。ウズベキスタンという国がどこにあるのかさえも分からない子がほとんどである。イスラム国と聞くと、とても危険な国というイメージを持ちがちだが、多田さんが言われるには「とても人が温かい」そうだ。



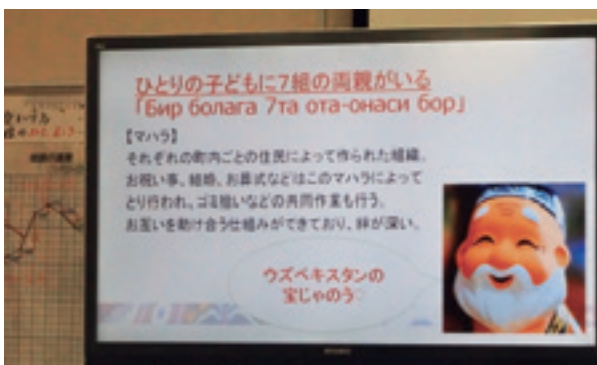
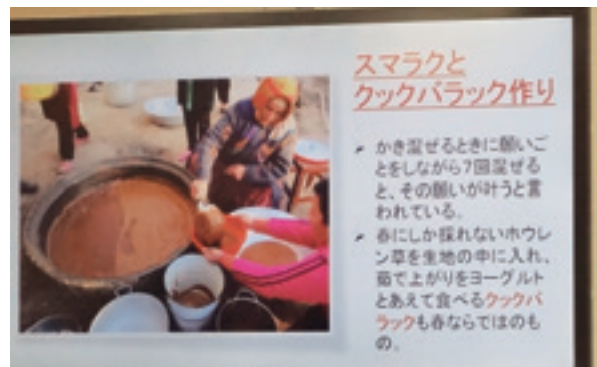
△6年生から多田さんに歌をプレゼントしました



児童が多田さんに書いた手紙

### 3 使用した教材

〈教材1〉 パワーポイント



マハラ……町内ごとに作られた組織のこと。お祝いごと、結婚、お葬式など、このマハラで執り行われる。サモアのマタイ制と似通っている。ウズベキスタンでは、「ひとりの子供に7組の両親がいる」と言われる。そして、それはウズベキスタンの宝だと言われる。

## 6 時限目 ▶▶▶ 「ジャイピーと学ぼう」

### ねらい

- ・日本と開発途上国とのつながりについて知る。
- ・わたしたちは世界の国々とのつながりの中で生きていることに気づく。

### 1 子どもの活動の流れ

- ①「身の周りで見つけた外国から来た物」を発表する。
- ②日本が開発途上国にしている援助について知る。
- ③ジャイピーが届けたいメッセージと自分にできることを考える。

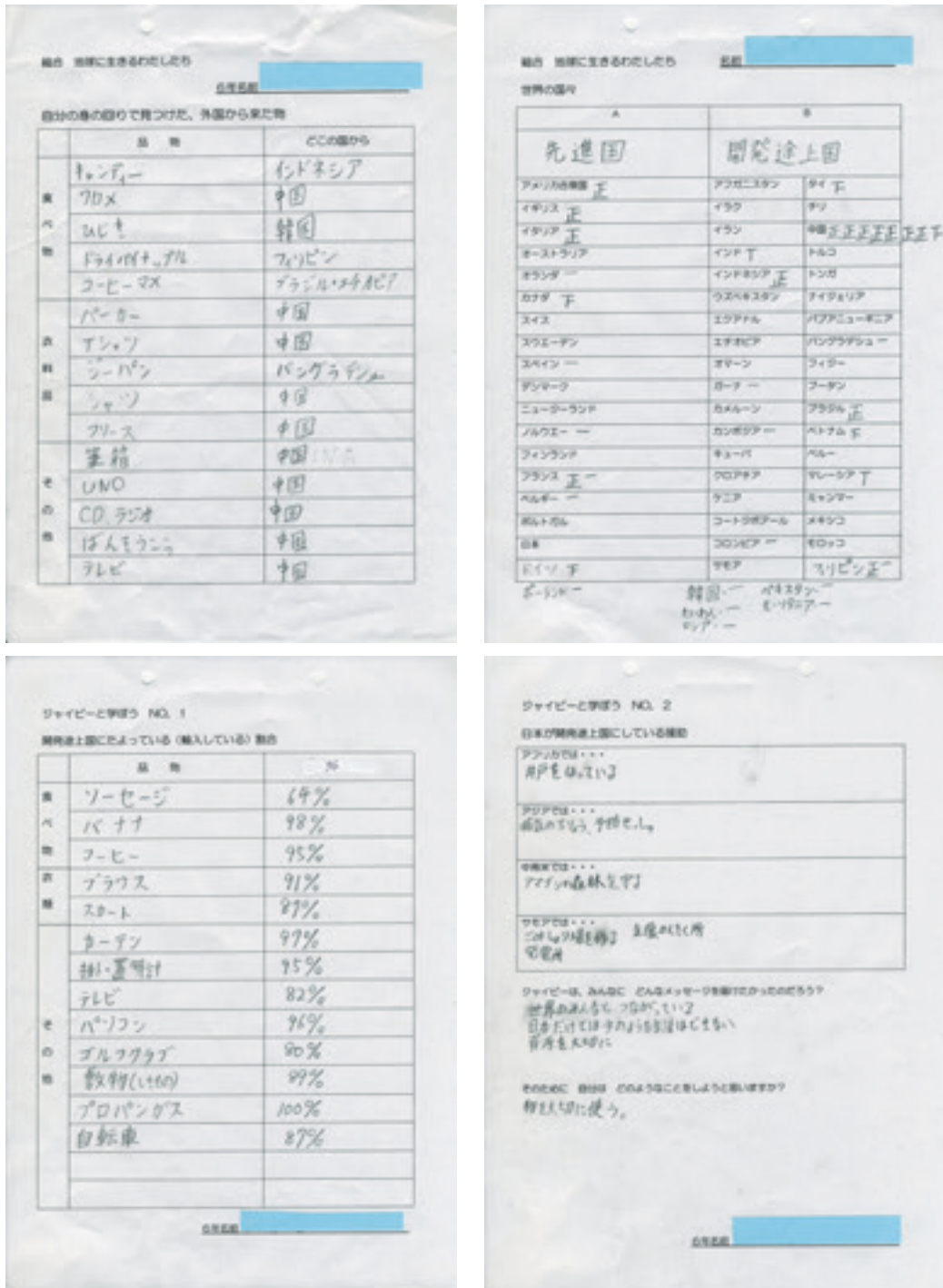
### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇自分の身の周りにある外国から来た物を、食べ物・衣料品・その他の領域に分けてワークシートに書き込んだ。それを発表し合い表にまとめていくうちに、輸入品は開発途上国が多いということが一目瞭然だった。その後、JICAの子供向けDVD「もっと知ろう世界のこと」を視聴した。その中に出てくるマスコットキャラクターが「ジャイピー」である。子どもたちは、食べ物、衣類、エネルギーなど毎日の生活に必要な物を開発途上国からの輸入に頼っていることを理解した。またジャイピーは、日本が開発途上国にしている援助についても説明している。例えば、アフリカで井戸を掘ったり、アジアで予防接種をしたり、中南米のアマゾンで森林を守る活動をしたりといったことだ。それに付け加えて、サモアではごみ処理場や気象観測所、発電所などを建設したことも紹介した。
- ◇「ジャイピーはみんなにどんなメッセージを届けたかったのでしょうか。」、そして「そのために、自分はどのようなことをしようと思いますか?」という質問を投げかけた。



## 《児童の反応》

- ・自分は世界のみんなとつながっている。日本だけでは今のような生活はできない。資源を大切にしなければいけない。そして、物を大切に使うと思う。
- ・世界のいろんな人々と支え合いながら生きていくことを忘れてはならない。みな同じ地球に生きているのだから、みんなが幸せでなくてはならない。日々の生活の中であらゆる物に感謝し大事にしようと思う。
- ・地球のために二酸化炭素を減らすようにしたい。節電・節水に心がけようと思う。



児童が取り組んだワークシート

## 3 使用した教材

《教材1》 JICA子供向けDVD「もっと知ろう世界のこと ～JICAは世界とともに～」 2010

## 全体を通して

### 1 所感

今回幸運にも「チームサモア」の一員として現地に行くことができ、そこで体験したことを児童たちに伝える授業を実践しました。「地球に生きるわたしたち」の5時限目の授業で、元青年海外協力隊の多田さんに体験談を話していただいた後、多田さんに手紙を書きました。何人かの児童が「生活、気候、言語など日本とは全く違う開発途上国にたった一人で行って活動した『勇気』が素晴らしい」と書いていましたが、私もサモアの学校訪問で、一人で活動している隊員に直に会った時、同じことを感じました。多田さんが、派遣先で生き生きと活動し帰国した後、「これから、この日本で自分ができることは何かということを考えるようになりました。」と言われた言葉が心に残っています。『地球に生きるわたしたち』の学習のねらい「地球という村をより良い村にするために、自分ができることを考えること」は、子供たちのみならず私自身の目標でもあります。



ガガエマラエ小学校の先生方と



笑顔が素敵なサモアの子供たちと

### 2 参考文献・資料

- 1) JICA北陸 『平成25年度 教師海外研修報告書』
- 2) JICA北陸 『JICA北陸 Profile』
- 3) JICA地球ひろば 『国際理解教育 実践資料集』
- 4) JICA子供向けDVD「もっと知ろう世界のこと ～JICAは世界とともに～」2010